



2019年11月30日～2019年12月6日

2019年12月9日

先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに上昇しました。また、2年国債金利は低下しました。

週初はトランプ米大統領の「ブラジルとアルゼンチンは自国通貨の切り下げを行っており、米国の輸出品が不利益を被っているため、両国から輸入する鉄鋼とアルミニウムに直ちに関税を課す」との発言を受けて、ブラジル・レアル安が進行しました。しかしその後は、ボルソナロ大統領の「必要とあればトランプ米大統領と話をすることが可能」との発言や、ブラジルの各種経済指標が好調であったことを受けて上昇に転じ、金利も低下しました。

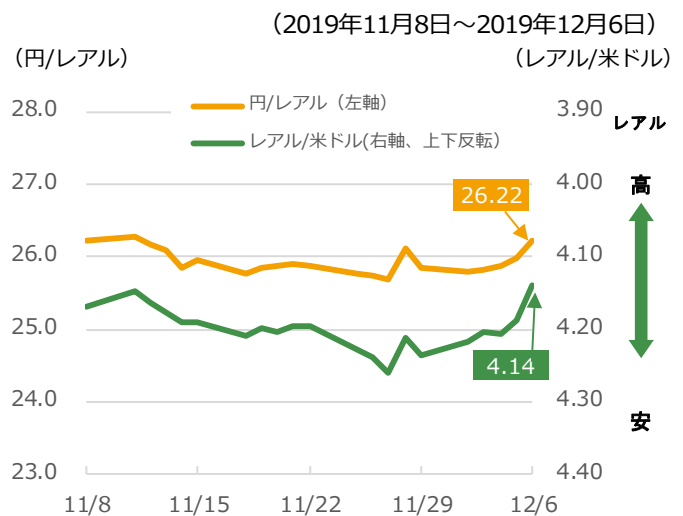
経済指標に関しては、第3四半期のGDP(国内総生産)成長率やIPCAインフレ率が発表されました。GDP成長率は農業部門や鉱工業部門が堅調に伸びたことを受けて、前期比0.6%、前年比1.2%成長と市場予想を上回る結果となりました。また、IPCAインフレ率も市場予想を上回る結果となりました。

今週の見通し

今週は小売売上高や経済活動指数などの経済指標の発表が予定されています。また、中央銀行からは政策金利の発表が予定されており、市場では0.5%の引き下げが予想されています。

前回の会合にて年内の追加利下げが示唆されたことから、市場では利下げが確実視されています。そのため、ここ許のブラジル・レアル安進行を受けて中央銀行の金融政策見通しがどのように変更されるのかに注目が集まりそうです。

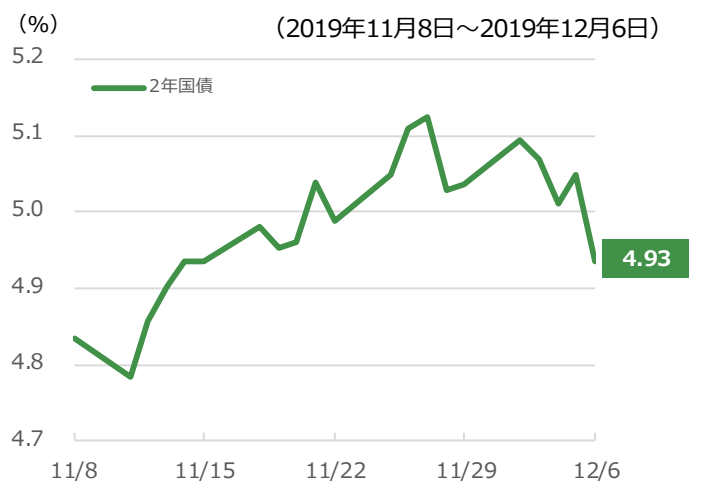
ブラジル・レアル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

ブラジル 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。